

# 新年度を迎えて

平成 27 年度はセンターと近隣の町屋（どれみふぁ荘）2 か所でデイの活動を開始しました。職員配置的には厳しい状況ではありましたが、それぞれのニーズや障がい特性に合わせ、専門性を取り入れた新たなプログラムを実施したことで活動が活性化し、多くの達成感や喜びを日々感じられた1年でした。また、活動場所を増やしたことで特化したプログラム（SST）をより深めることができ、利用者のモチベーションも上がってきたことも大きな成果でした。

新年度は第三者評価の受診の年です。前回の受診結果を再評価しながら新たな課題等を明確にし、検討しながら健全な事業運営に生かしていきたいと思っております。平成 28 年度も宜しくお願い申し上げます。

（京都市伏見障害者デイサービスセンター 所長 時任百子）

## 相談支援 事業より。

相談支援の相談員を始めて、この4月で3年目を迎える事ができました。相談支援に寄せられる個々の希望や課題は多岐にわたり、大変なことも色々ありましたが、自分にとっても得られるものが多く、非常に充実した時間を過ごす事ができました。

また、相談支援を通して様々な事業所の方とお会いすることで、障害者支援に関する知識や視野が広がり、自分自身にも良い変化が多くありました。そして何よりもやりがいを感じられたのは、様々な悩みや課題を抱えながらも、どの方もそれぞれに生きていく強さとしなやかさを目の当たりにしたことです。利用者さんそれぞれに送りたい生活があり、自分らしさを模索しながら日々を過ごされている姿勢に刺激を受け、それが自分の原動力となっています。これからも皆さんと一緒に考え、なんでも相談でき、頼られる相談員を目指していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。（茗荷）

## 六甲山

去年の秋 六甲山牧場に 行きました。

職員と一緒に 子羊を作りました。 羊の毛を 触ったら ふわふわしてた。

羊や馬がいるところ 私の周りを羊たちが歩いてる 「メ～」といってる羊もいた。

## 秋の思い出

笛で 羊が 小屋に帰っていくのを 見ました。

みんなで飲んだ 飲み物 おいしかった。

（P.N ウサギ）

初めて記事を書きます。ボクは望月善光です。最初なので、簡単に自己紹介をします。「善光」という名前はお父さんがつけました。信州の善光寺にちなんでいます。何で善光寺なのかは謎やけど、自分ではぼちぼち気に入っています。

好きなスポーツはサッカーとバスケットで、行ってみたい国はブラジルです。サッカーの国だからです。… ブラジルの人、聞こえますかー！

好きな食べ物は、西瓜とみかんです。夏は西瓜を食べすぎて、しょっちゅうお腹をこわします。みかんは、昔食べすぎて手のひらが黄色くなりました。ちなみに好きな色は黄色です（サッカーのブラジル代表の色だから）。嫌いな食べ物は、ピーマン（にがいやん）とネギ（シャキシャキしてるのがあかん）です。好きな動物は、犬（雑種）と猫。昔飼ってたから。

いま一番楽しみにしているのは伏見デイに行くことです。大谷さんに会えるから。

今回はとりあえずこの辺で…。さて、次はあるかな～!? （望月 善光）

TO BE CONTINUED



## 編集後記

今号は掲載したい記事が多すぎて、編集作業に大変苦心しました…（>\_<）紙幅の都合で載せられなかった内容は、ぜひとも伏見デイホームページでどうぞ（続きはWEBで?）。絵画作品もご覧いただけます…！（山下）

## ありがとう ございました！

高山様よりご寄附いただき、どれみふぁ荘でテレビを購入いたしました。



# TANBABASHI-DAYORI

京都市伏見障害者デイサービスセンター

発行責任者：時任 百子

〒612-8318 京都市伏見区紙子屋町 544

TEL：075-603-1290 FAX：075-603-1292

http：//www.normanet.ne.jp/~fusimids/

Email：f-days@kyofc.or.jp

VOL.

39

2016 APRIL



2月20日(土)。伏見デイ主催の地域交流イベント「お楽しみ会 2016」が盛大に開かれました。私たちは例年、デイの行事としてこの時期に「お楽しみ会」を行なっているのですが、今年度はそれを当法人の「地域振興事業」の一環としてスケールアップさせ、広く近隣の皆さんを招いて地域交流の機会に…！と、より多くの方に向けた企画内容を考えました。

当日はスペシャルゲストとして、大阪を拠点に全国のライブハウスや学園祭で活躍中の兄弟ミュージシャン《ゆる》さんを迎えてミニライブを開催。心に響く熱演と、客席を巻き込む軽快なMCで会場は歓声と拍手喝采に包まれ、終演後にはサイン入りのCDを手にと、《ゆる》の二人と握手や記念撮影をされる方で行列ができていました。

ライブの余韻が残る中で行なわれたのは、柔道整復師（デイ・法人職員）による「グループ体操」と、別室“どれみふぁ荘”の利用者さんたちによる「無料カフェ」です。体操のコーナーでは、家庭で気軽にできるストレッチの紹介、さらに腰痛の悩みなどの相談にも応じ、「今日は来てよかった！」と笑顔で帰られる一般来場者の方もおられました。また、カフェのコーナーでは、日中活動で調理や接客の練習をされている利用者さんが、この日のためにコーヒー・紅茶や手作りクッキーを用意。初めて本物のお客さんをおもてなしする機会となり、少し緊張しつつも、利用者さん同士で助け合う姿や、「コーヒー（紅茶）はいかがですか？」と、進んで呼びかける姿が印象的でした。

地域に向けて開かれた初めての「お楽しみ会」、しかも当日はあいにくの雨模様で、来場者数の見通しがもてず不安な気持ちもありましたが、実際は会場がいっぱいになるほどのお客さんが来て下さって、伏見デイのことを身近に知っていただく絶好の機会となりました。また、近隣へのチラシ配りや声かけ等の広報活動、会場を彩るたくさんの飾り物づくり、特設ギャラリーの作品制作など、利用者さん・職員が一丸となってこの日の準備に取り組み、私たちもかつてない一体感や達成感を味わうことができました。

今後ともこうして魅力あふれる企画を通じ、私たち伏見デイと地域との結びつき、利用者さんたちと近隣の皆さんとのふれあいの機会を大切にしていきたいと思います。（大谷）

地域に親しまれる施設をめざして  
お楽しみ会  
2016  
開催!!

地域振興  
事業



# 錦秋六甲山へ



昨年 10 月、「秋のレクリエーション」で兵庫県の神戸市立六甲山牧場へ行ってきました。全 3 回の日程に分けて実施しましたが、どの日も見事に快晴。職員が下見に行った際はひどい悪天候で、景色どころか車のワイパーしか見えず、動物どころか小屋しか見られず…不安だらけで外出当日を迎えただけに、利用者さんたちもこの好天を大変喜んでおられました。

現地ではまず初めに、皆さんで“ウールクラフト”の体験をしました。牧場産の羊毛でマスコット人形を作るというもので、非常に個性豊かな“羊のショーン”たちができていました。

その後は六甲山限定のアイスクリームを食べたり、お土産を選んだりして、最後にメインイベントである“シープベル”を観覧しました。毎日決まった時刻にベルが鳴り、160 頭もの羊が大挙して小屋へ戻っていくという



もの。下見の際に現地スタッフの方から「羊の群れが一斉に目の前を駆け下りますから、くれぐれも気をつけて下さいね」と言われていたので戦々恐々、少し離れた場所から遠巻きに見守っていたのですが…何と、羊たちはベルが鳴る前から一頭また一頭とゆっくり丘を下りてきて、時間が来るまで小屋の周囲で余裕の待機 (!! )。まさかの展開に苦笑を禁じえない“シープベル”でした。また、現地には「笑顔の羊」なる羊が 1 頭いて、“会えると幸運が訪れる”と言われているらしいのですが…残念ながら見つけれず。でも、利用者の皆さんは笑顔いっぱい、たくさんの羊や動物達とふれあい、秋が深まる六甲山を存分に満喫されていました。(奈佐)

# 忘年会

平成 27 年の師走。伏見デイ恒例、年の瀬を華やかに彩る「忘年会」が 3 日間の日程に分かれて行なわれました。

今回のプログラムも内容が盛りだくさん…!! 午前中は伏見デイの 2015 年をまとめたスライド上映で、日中活動や行事の際に撮り貯めた写真などを観ながら、一年間を楽しく振り返りました。

昼食には特別お取り寄せの豪華オードブルが登場し、ジュース等の飲み物で乾杯！午後からは演者さんを迎えてのミニライブ、最後

にビンゴゲームでプレゼント贈呈と、お楽しみが目白押しの日となりました。

今回の忘年会、その最大の特徴は 3 日間全てでミニライブを開催し、しかもそれぞれ違うゲスト（演者さん）が来られたことです。《月歌（るか）》さん、《沸きだせ！温泉ズ》さん、《Waoya》さん、どの方のステージも大変素晴らしく、おなじみの歌と一緒に口ずさんだり、オリジナルの楽曲を聞かせてもらったり、楽しいトークで爆笑したりと、毎回大いに盛り上がりしました。まるで歳末の慌ただしい中にぽっかりと現れた“オアシス”のようなひとときで、利用者さんたちの笑顔が印象深い忘年会となりました。

(畑谷)



# どれみふぁ荘 躍進中!!

ますます

どれみふぁ荘での SST の取り組みがスタートして一年。利用者の皆さんと多くの経験を共有することができ、まさに『躍進!!』の日々でした。

この一年間の活動を通じて、今まで以上に強く感じるがありました。それは「きっとできないから…」「時間がかかるから…」と、私たち周囲の者が選択あるいは経験させなかった（あえて強い言葉を用いることをお許し下さい）ことが、皆さんの本来の力をより小さくしていたかもしれない、ということです。

そこで、私たちは『利用者さんの可能性に限りなく挑戦していこう～♪』を目標に、これまで様々な挑戦を重ねてきました。「できた!」「伝わった!」という多くの成功体験を経て、皆さんの“自己効力感”も高まったように思います。それは無論、利用者さん自身の力もありますが、小集団での活動によって仲間を意識する機会が増え、他者への理解が自己理解にも繋がっていることが大きいものと考えられます。小集団だからこそまず自分自身を保つことができ、その上で一緒にいる人との関係を考えたり、相手を理解したりすることに広がったのではないのでしょうか。

また、利用者さんのご家庭から「本人の変化に驚きました」とのご報告を頂いたり、関係機関の方から「適切な環境づくりをされていて、先駆的な取り組みですね」と言って頂けることもありました。そうした反響をうれしく思う一方、ふと考えることがあります。「果たして、変わったのは“利用者さん”だろうか…」と。利用者さんが

正しく評価されていないために、実はまだ発揮できていない力があるのではないのでしょうか。私たち支援者も、大きな環境の一つです（その大部分を占め、良くも悪くも利用者さんに多大な影響を及ぼしていると言っても過言ではありません）。そう思うと、変わったのは“環境や支援”の方だったのかもしれません。

すでに平成 24 年から“障害者虐待防止法”が施行され、この 4 月からは“差別禁止法”が施行されます。そこでは何度も「合理的配慮」という言葉が用いられ、いわゆる「問題行動」と呼ばれる状況は、利用者さん自身が原因ではなく、「合理的配慮」がなかったゆえに起きるもの、と言われています。つまり「なぜ“問題”とされる行動をするのか」ということを、障害特性を踏まえて対応することが必要となるのです。社会的相互作用の障がい、想像的活動の障がいなどの特性に配慮し、根拠に基づいた支援であることが重要で、「どうすべきか」ではなく「そうするためにどんな環境を整えるか」が大切になってくると思います。今後も、他者から期待されている役割が一人ひとりあることを実感しながら過ごしていける、“エンパワメント”に繋がる環境づくりに努めていきたいと思っています。(山内)

# 伏見デイ

いま、伏見デイでは“アート”が熱い!! 昨年度より力を入れてきた創作活動で、利用者さんたちの個性が爆発しています。楽しく生き生きと描かれた作品は「ふれあいまつり」や「とっておきの芸術祭」、先日の「お楽しみ会」などでも賞賛の声多数。現在、河原町荒神口にあるギャラリー“artspace co-jin”で開催されている企画展「コジコレ」に井上広美さんの作品が選ばれ、5 月 8 日までの日程で展示中です☆ 入場無料ですので、お近くまでお越しの際はぜひお立ち寄り下さいね…!! (山下)

ルネッサンス

# Renaissance!!

